

1968～1989

和光市の歴史

【近代
—明治・大正・昭和時代—】

明治元年になると、上新倉村、下新倉村、白子村の3か村は武蔵国知県事の支配となり、明治2年2月9日からは品川県の管轄となりました。その後、管轄は入間県から熊谷県に替わり、明治9年8月に埼玉県の間野郡の管轄となりました。明治22年になると下新倉村と白子村は合併し、白子村になりました。上新倉村は1村で新倉村と改称しました。

昭和18年、白子村と新倉村は町村合併により大和町となりました。

町村合併自体の動きは、昭和6年ごろにすでにありました。そのころ、昭和恐慌で不況のあおりを受けていた白子村、新倉村は、その打開策として志木(しき)・大和田(おおわだ)・朝霞(あさか)・内間(うちま)木(ぎ)・片山(かたやま)とともに東京市への編入を考えていたようです。しかし、結局これは実現されませんでした。

昭和18年の町村合併は、そうした不況の打開という理由ではなく、戦争に向けての国内整備、行政機構の簡素化、経営強化を目指す戦時国策の一環としての町村合併でした。

こうして、昭和18年4月1日、大和町が誕生しました。



大和町紋章



【町から市へ 和光市の誕生】

戦後、大和町をめぐって再び合併の動きがありました。しかし、大和町は合併に積極的ではなく、その後も近隣町との合併の動きが何度かありましたが、結局は単独市政を目指すこととなりました。

市制施行にあたり、新しい町の名前を決めることになりました。

当時、「大和町」をそのまま「大和市」とすると、すでに神奈川県で発足していた「大和市」と同じ名前の市が誕生してしまうため、新しい名前が必要となりました。

1968～1989

そこで、町内の住民から広く新名称を募集したところ、次のような名前が候補となりました。

1 和光市（わこうし）	2 新倉市（にいくらし）
3 美和市（みわし）	4 埼玉市（さいたまし）
5 東崎市（とうさいし）	6 白子市（しらこし）
7 埼玉南市（さいなんし）	8 本田市（ほんだし）
9 新和市（しんわし）	10 栄市（さかえし）
11 新大和市（しんやまとし）	12 昭和市（しょうわし）
13 東和市（とうわし）	14 南埼玉市（みなみさいたまし）

応募者は657人、市名の種類は259にのぼりました。

新市名の選考は、市制施行準備委員会によって行われました。

「郷土感」、「象徴性」、「発展性」、「読み」、「書き」の5つの項目により審査した結果、「東崎市」と「和光市」の二つに絞られ、最終決定は町議会にゆだねられました。その結果、現在の「和光市」という名称が選出されました。

「和光市」という名称は、大和町の「和」をとり、平和・栄光・前進を象徴し、大和町が明るく住みよい街に発展するようにとの願いがこめられています。

市制施行日は、昭和45年10月31日とされました。当初は11月1日を予定していたのですが、大安吉日であることを理由に10月31日に施行となりました。

こうして、県下で29番目の市として、和光市はスタートしました。



市名抽選の様子



市制施行の旗が掲げられている



市制施行記念式典の様子



和光市紋章